



Kainan East Rotary

DISTRICT 366

CLUB WEEKLY BULLETIN

事務所 海南市日方1294 海南商工会議所内 TEL (07348) 2-4363

例会日 毎週月曜日 12時30分 ♣ 1例会のみ 18時30分 於海南商工会議所4F

会長 吉田隆一 幹事 片山博之 会報委員長 坂上充作

才87回 例会 昭和52年4月25日(月) 於海南商工会議所

1. 開 会 司 会 谷 井 昭 三

2. ロータリーソング 「我等の生業」

3. 出席率 75% 会員総数 28名 出席者数 21名
前回修正出席率 85.71%

4. ビジター 神保勝俊様 (和歌山東R.C.) 津田算正様 (和歌山R.C.)
桐山富夫様 (") 窪田 暁様 (和歌山南R.C.)
和佐 勝様 (海南R.C.) 森元喜美雄様 (和歌山R.C.)
柴川純三様 (") 出口暢通様 (海南R.C.)

5. メイキャップ 吉田隆一君 (4/20 海南R.C.)

6. 会長スピーチ

○ 4月22日～28日が米山記念奨学会週間になっていますので後程山本委員長より御話を承るることになっています。4月26日は和歌山R.C.の創立40周年記念式典が催されることになっており、お招きをいただいていますので私が出席させていただきます。4月29日は海南R.C.との合同ゴルフコンペが開られませんが参加諸君の御奮闘をおねがいして来週例会のニコニコ箱にその成果を入れて下さい。

7. 幹事報告

- 例会臨時変更通知 富田林R.C. 5/12(木)～5/9(月) 於P.L. カントリークラブ
- 例会休会通知 橋本R.C. 5/3 田辺R.C. 富田林R.C. 5/5
- ローターアクト認承状伝達式 スポンサー堺南R.C. 堺南ローターアクトC. 5/7(土) 1700:～ 於堺市農業会館

8. 次期幹事報告

○ 来年度全国会員名簿の申込みが参っておりますが1冊1200円です。御希望の方は私の方迄御連絡下さい。

9. クラブ協議会 山本米山記念奨学会委員長

さきほど柳川副会長からお話がございました通り、去22日から28日の1週間が

“SERVICE” I believe in ROTARY 「奉仕」ロータリーを私は信奉する

米山記念奨学会週間に当たっていますので、皆様方の一層の御理解と御協力をえるために、米山記念奨学会についての一端を御紹介さしていただきたい。最初東京 R.C. の事業として発足したものであるが、日本ロータリーの創始者米山梅吉氏の業績を記念して、アジア各国からの在日留学生に奨学金を供与する制度を作られた。現在では日本の全地区が参加し、奨学金 1 億数千万円、奨学生は 16 ヶ国より 213 名に給費を行っている。主として大学院学生を対象としていて留学生のいる大学所在地のクラブが世話クラブとなりカウンセラーを委嘱して面倒をみることにしている。極めて貧弱な我国の私費留学生援助体制の中では、ロータリアンの浄財に賄われているこの奨学金事業は誇り高く光彩を放っていると思う。然し乍ら欲をいえば問題もある。支給期間の原則を事情の有無にかかわらず 2 ヶ年で打ち切っている点である。折角の援助が中途半端におわり、逆に逆恨みされる危惧がないだろうか。此の週間を意義づけるためにも同奨学金への御理解と益々発展への御協力を御願いたいと思う。猶ロータリーの友 4 月号には此の週間に因んだ記事が沢山のっていますので御目通しいただきたいと思います。

10. 卓 話 山田秀雄君

戦後我が国の経済は幾度か景気循環を繰り返し乍らも平均 10% と云う世界にも例のない高度成長を遂げてきた。然し昭和 48 年のオイルショックを契機として減速基調をきたし、低成長経済へ移行した背景には、

- (イ) 国際情勢の激動と不安定な資源供給の制約が決定的になった。
 - (ロ) 環境問題などから用地・用水面の供給力に制約が生じてきた。
 - (ハ) 技術革新の停滞などがあげられる。そこでこれからの低成長時代に対応してゆくには、発想の転換や量から質への転換に視点を置き経営に臨む態度が必要である。低成長経済に対応する中、小企業経営の要点を指摘してみると
- (イ) 経営環境の変化に対応出来る企業体質であるかどうか
 - (ロ) 月次決算をおこない生産販売・資金の回転・損益状況などチェックポイントをきめ早目に年次計画の軌道修正を行い得るようにする事
 - (ハ) 物・金・人の順でマイナスになっている部門がないかどうかにか心がけ企業の無駄を廢する事
 - (ニ) 企業の重点方針を明確にし其重点政策を実行に移せるよう組織の効率化を考える事などが必要である。企業経営者として何を基準に自己診断をすれば良いかが問題だが、①同業他社との比較②対系列による比較即ち現状と前年同期や前々年同期との比較による方法が一般的である。その結果出た比率ないしは効率の優劣丈でなく何故優劣が生じてきたかを追求し企業体質の特色を捕えるべきである。経営内の販売・生産・財務・事務・人事・など機能別に分けるか人物・金・設備・市場・情報などの要素別に分けて捕らえれば良い。経営現模の大小に関係なく経営の自己診断は必要であり低成長下の厳しさに打ち勝つためには先づ己を知りそして他社を知る心がまえが当然だと思ふ。

次回例会案内 昭和 52 年 5 月 2 日 (月) 18:30~ 於海南商工会議所

会 員 卓 話